

P T 調査データオープン化の方針

1. データ公開の方法

◆ 国土交通省のプラットフォームでの公開

- ・国土交通省都市局は、PT 調査などの都市交通調査に関するさまざまな情報を発信するため「都市交通調査プラットフォーム」を公開している。
- ・このプラットフォームには、都市圏の P T 調査データを公開できる二つのツールが整備されている。これらのツールは、各都市圏 P T 調査の調査主体が、定められた形式で P T データを提供すると、データを可視化したり、提供したりする機能が設けられていて、容易にデータをオープン化することができる。

< 2 つのツールの概要 >

i. 可視化・簡易分析ツール

- 専門家でなくとも、基礎的な交通データを簡易に集計・表示できる
- 二つの機能を有する
 - ーマップでみる：地図上に交通データを表示（トーンマップ）
 - ーグラフでみる：都市圏全域及び大まかなゾーン別のグラフを表示

ii. 集計データダウンロードツール

- データ分析に長けた人が、自由に分析を行える
- 任意の条件を指定すると、さまざまクロス集計結果をファイル出力

2. 都市交通調査プラットフォームでの公開方針

(1) プラットフォームにおける公開データの条件

国交省 P F においては、P T 調査データの精度を考慮し、ゾーンなどについて公開するデータのレベルを定めている。

< 考え方 >

- A：統計的なデータ精度を有するゾーンレベルのデータを公開する
- B：可視化ツールについては、結果の見やすさを重視する
- C：休日調査を実施した都市圏は、休日データも公開する

< データ精度への対応（集計データダウンロードツール） >

- ① 公開するデータには、それぞれの統計的な精度を表示
- ② 少量データは、個人の行動が特定される可能性を排除するため、秘匿

(2) 西遠PTの公開データ

上記の国交省ツールのデータ取扱い方針を踏襲し、以下の方針で、統計的な精度を有するデータを公開対象とする。

【公開対象の方針】

- ① 拡大処理マスターに基づく集計結果を対象とし、統計的な精度を有さない推計マスターに基づく推計結果は対象としない
- ② 西遠PTの統計的精度を考慮し、以下のゾーンレベルを公開対象とする。

<可視化・簡易分析ツールの公開データ>

- －中ゾーンの交通量：全ての指標

可視化ツールにおいては、目的別または代表交通手段別の発生交通量等が公開されるが、これ以上細かいデータは公開されない。このため、中ゾーンレベルのデータを公開して差し支えないと考えられる。

<集計データダウンロードツールの公開データ>

- －大ゾーンの交通量：目的別・代表交通手段別発生量等を含む下記以外の全指標
- －中ゾーンの交通量：目的別発生量等、代表交通手段別発生量等
- －小ゾーンの交通量：発生量等（いずれの項目ともクロスしない）

集計データダウンロードツールでは、目的と代表交通手段をクロスした目的別代表交通手段別交通量が含まれており、可視化ツールよりも詳細なデータが公開される。このため、大ゾーンまでの公開を基本とすることが適切と考えられる。

ただし、大ゾーンでは、粗いレベルのみに留まって、データ活用範囲が限られる。

一方、クロスする項目を限定すれば、中ゾーン未満の詳細ゾーンでも、データ精度は担保される。データ活用の有効性と、公開データの精度確保を両立させるため、一部データは中ゾーン・小ゾーンでも公開するようにする。

- ③ データ精度に対応した提示の仕方は、国交省の考え方を踏襲する
 - ・統計理論に基づいて、公開するデータの精度を表示する
 - ・少量データについては、個人の行動が特定される可能性を排除するため、秘匿
- ④ 休日調査の結果も公開する。

3. 国土交通省プラットフォームへのデータ公開の予定

① 提供データの整備・国交省への提出 : 11月

- ・データの整備を行い、作業でき次第、提出する。

※まだ PT 調査業務は完了していないが、現況データ（拡大マスター）について、変更の可能性は高くないため、作業に着手する

② ツールの公開 : ~3月（年度内目標）

- ・提供データを用いて、国土交通省でツールを整備（ツールにデータを搭載）
- ・チェック・確認終了後、都市交通調査プラットフォームにデータ公開を開始

参考：西遠 PT のデータ精度に対応した公開データの基準

（1）統計的な精度が担保される基準値

PT 調査は、特定の交通量が精度よく把握できるように、抽出率を定めて実施している。西遠 PT の抽出率は 1.19%であり、この場合、精度を担保しているとみなせるカテゴリーあたりのトリップ数は約 8,000 トリップである。このトリップ数以上であれば精度の目安（相対誤差 20%）をクリアするが、これを下回るものは、精度が保証されない。

→ 精度保証基準値（8,000 トリップ）を上回るか否かを集計結果に表示

（2）秘匿

PT 調査の非常に量が少ない交通量データは、その交通を行った個人が特定される可能性を否定できない。PT 調査では、調査されたサンプルに拡大係数を乗じて交通量を再現している。平均的な拡大係数（抽出率が 1 %であれば、100 程度）と同程度以下の交通量は、一人の人の交通と推測できる。また、PT 調査は、世帯単位で調査されるので、世帯全員が回答した場合、平均拡大係数の数倍であれば、特定の世帯の交通とみなされる可能性がある。

国土交通省のツールでは、平均拡大係数の 5 倍を基準に、これを下回る量の交通データは、秘匿することとしている。

→ 平均拡大係数の 5 倍（420 トリップ）以下のデータは秘匿

表 ツールにおけるデータ精度の表示等

集計値の大きさ	集計値の精度等	表示	秘匿措置
基準値を上回る	統計的な精度が保証される	1	数値を表示
基準値を下回る	統計的な精度が保証されない	0	数値を表示
1 または非常に小数	個人が特定される恐れがある	- 1	秘匿する